

鮠

〔魚鑑_上〕にしん略中 奥羽蝦夷の海多く出す、近來下總銚子浦、大利根の川口にも是を得る、

〔採藥使記_上〕重康曰、蝦夷松前ノ海ニカドト云フ魚アリ、一名ハニシントモ云フ、其形チイハシニ似テ大ク色青ク、味モ佳ナリ、此魚聚ル所沫ヲ吹キテ水面ニ浮ム、雪ノ降リタルガ如シ、網ヲ以テ是ヲ捕ル腹ニ子アリテ滿テリ、乾テ數ノ子ト云フ、和俗専ラ歲始其外嘉儀ニ用ル是ナリ、

〔蝦夷行記〕商賣は皆旅人にして、百姓と稱する者は皆國人なり、百姓の業田作はせず、唯鮮をとりて、十五の一を以て運上とし、餘分を以て衣食とす、是松前中の收納物也、此鮮獵誠に天下一の大獵成べし、さればこそ此干鮮をこやしに用ゆる國々は、南部津輕出羽北國近江へかけて是を用ひ、かすの子は天下一同に用ひて、すくなしとせず、此魚年來敢而不獵と云事なく、其とる時分にはおのづからより來りて、時節をたがへず、春分十日過より來る、凡二十日程の内に、三度寄來りて、獵を得れば翌年迄の渡世ゆたかに濟なり、獵時分は武家をはじめ、松前中の者老幼男女上下一同、此業にかゝる事、誠に田作の秋と異なる事なし、春分より初り、凡二十日ほどに取仕廻て、鮮數の子それ〴〵に干あげ俵物とし、小船に積で江刺へ廻す、此時江指へは北國船いりこみ、鮮數の子の相場を立て買取、其國々へ積廻す、松前近邊の鮮は、松前城下へ積登せ、城下にて賣拂なり、

〔下學集_上〕鮠カマス

〔壺囊抄〕魚類字 鮠カマス

〔運歩色葉集 魚名〕鮠カマス

〔和爾雅〕龍魚、梭魚カマス、梭魚カマス、梭魚カマス、梭魚カマス

〔書言字考節用集_五〕鮠カマス、鮠カマス、鮠カマス、鮠カマス、鮠カマス

〔天上庸御名之事〕女房ことば

一かます くちすぼ